

EVERY LAST CHILD



Save the Children



世界で忘れ去られた子どもたち
～子どもを誰一人取り残さないために～

要 約

世界中で、子どもたちの生活は大きく改善されてきました。しかしながら、未だに何百万人もの子どもたちが、人種や性別など彼らが「誰であるか」、住んでいる場所などを理由に、その恩恵から取り残されています。

貧困

差別

意見が聞かれない
声を上げることができない

セーブ・ザ・チルドレンは、世界の首脳が子どもたちに向けて、この3つを保障するよう求めています。

公正な資金調達

説明責任

平等な取り扱い

それは、すべての子どもたちの基本的な権利を守り、最後の1人の子どもまで取り残さず支援を届けるために必要です。

生きて健康に育つために

学ぶために

守られるために

最後の一人まで～Every Last Child 要約

世界の忘れ去られた子どもたち

今日も、世界で約 16,000 人の子どもが亡くなっています¹。そして、約 2 億 5 千万人の学齢期の子どもたち—世界の 5 分の 2 の子ども—は学ぶことが出来ません²。

どの子どもが生きるか死ぬか、学ぶか否かは、決して偶然ではありません。ある特定のグループの子どもたちを制度設計上、あるいはネグレクトにより排除したことの結果に他ならないのです。

私たちは、ヨーロッパの海辺に難民の子どもの遺体が打ち上げられ、先住民族の子どもが単にその出自が原因で、命を救う保健サービスを受けられない、そんな理不尽な世界にいます。それは、女の子がただ娘であって息子ではないために、教育を受けることを否定され、将来への希望が消される世界です。それは、障害を持つ何百万人の子どもたちが、最大限に生きることを後押しする教育を受けることができない世界です。

セーブ・ザ・チルドレンは、これまで約一世紀にわたり、子どもたちを貧困から救うために活動してきました。今、私たちは貧困と同じくらい致命的で破壊的な敵と闘う覚悟を決めています。その敵とは、人種や性別など、「誰であるか」のみを理由として、何百万人も子どもたちが予防可能な原因で亡くなり、学ぶ機会を否定され、暴力にさらされる原因となる、差別です。

この報告書は、これら忘れ去られた子どもたちの状況を伝え、最後の一人の子どもに手を差し伸べるためには何が必要とされているかを提示します。

世界は、差別に対する新たな闘いを始めなくてはなりません。

この数十年間で、世界は貧困との闘いにおいて大きな進展を遂げました。1990 年以降、5 歳未満で予防可能な原因で亡くなる子どもの数は半減しました³。2000 年と比較して、小学校に就学していない子どもの数は 42%削減されました⁴。また、栄養不良が原因で発育障害の状態の子どもたちは、3 分の 1 減りました⁵。

こうした祝うべき成果は、何百万人も命を救い、状況を改善しました。しかし、差別に対する闘いでは、同じような成果は得られていません。つまり上述の成果は、すべての子どもに公平に行きわたっていない、ということです。

極度の貧困は、依然として致命的な状況ですが、亡くなってしまう子ども、教育を受けられない子どものあまりに多くは貧しい「だけ」ではありません。彼らが豊かな国、あるいは世界で最も貧しい国に住もうとも、彼らの多くが経験するのは貧困と差別の組み合わせです。この 2 つの不公平が重なって、排除が生まれるのです。

「排除(エクスクルージョン)」とは何を意味するのでしょうか？

世界で忘れ去られた子どもたちとは、様々な貧困や差別がからみあい排除されたグループの子どもたち、特に健康や学びといった社会福祉における最近のグローバルな進展の恩恵を受けていない子どもたちです。子どもたちが直面する差別は、故意になされる場合や、ネグレクトや見過ごしの結果である場合があります。

様々な組み合わせられた差別—どのような子どもたちであり、どこに住んでいるのかによって区別されたり制約されたりする場合や、そうした差別により子どもたちが持つ権利が奪われてしまうような場合もあります—に貧困が重なり、結果として子どもは排除されてしまいます。こうした排除により、何百万人の子どもたちが、必要とする食べ物や医療、教育を受けることができません。さらに、こうした子どもたちやコミュニティは、概してこの排除を変えるような力をもたず、彼らの生活を左右する決定に影響をもたらすこともできません。

排除はすべての国において見られ、何百万人も子どもたちが経験しています：

- 差別の対象となっている民族や宗教グループに属する子どもは、世界で4億人います⁶。
- 10人に1人の子どもが紛争の影響を受けた国に住んでいます⁷。
- 1億5千万人の子どもが何らかの障害を持ちながら生活していると推計されます⁸。
- 4億人の13歳未満の子どもたちが極度の貧困の中に暮らしています⁹。
- データ上で見られる世界の子どもの4分の1、12億人の開発途上国の子どもたちが彼らの国の中で取り残された地域に住んでいます¹⁰。

排除されている子どもたちのほとんどが、取り残された子どもたちです。

世界の忘れ去られた子どもたちが、私たちの新しいキャンペーンの対象であり、主役でもあります。

私たちがこれらの子どもたちを対象とするのは、あまりにも多くの命や生活が差別により失われ、破壊されているためです：

- 保健、栄養、教育の欠落を経験する低所得国および低中所得国の3分の2の家族は、少数民族の出身者を家長としています¹¹。
- 先住民族は世界人口の5%を占めますが、そのうち15%が貧困の中で暮らしています¹²。
- 7億2千万人の女性が18歳未満で結婚しています。それと比較して、男性は1億5千6百万人です¹³。
- 最貧困家庭の女の子は、最貧困家庭の男の子と比べて学校に行っていない確率が高くなっています¹⁴。
- 中等教育の学齢期の難民の子どものうち、学校に行っているのは4分の1のみです¹⁵。
- 障害を持つ子どもは、そうでない子どもと比較して、身体的および性的虐待とネグレクトを経験する確率が3~4倍となっています¹⁶。

何百万人の子どもを傷つけるばかりでなく、こうした差別の経済的・社会的影響は深刻です。排除は信頼、地域の団結、経済成長、そして平和を弱体化させます。

排除された子どもたちに関する新たな事実

セーブ・ザ・チルドレンによる「**子ども開発指数(Child Development Index, CDI)**」が明らかにしたことは、世界各地の子どもたちが今日直面する「生涯における様々な機会(life chances)」における広範な不平等は、ただ「子どもたちが誰であるか」に左右されているということです。CDI では、生涯のスタートが公正であるかを測る主要な指標を用いて、各国を、そしてより重要な点としては国内における各グループを、子どもたちの生涯における機会の大小にしたがってランク付けしました。結果、明らかになった不平等は著しいものでした。コンゴ民主共和国では、国内の民族間の格差が、エジプトとソマリア間の平均的な格差と同じくらい大きかったのです。中所得国であるペルーでは、先住民族であるケチュア族の子どもたちが手にしている生涯機会は、貧困国であるガンビアの子どもたちの平均と同等でした。また、モザンビークでは、国内における格差が、チャドとインドネシアの格差を平均したものと同じくらいでした。

この報告書では、「**グループ別不平等データベース(Group-based Inequality Database, GRID)**」を用い、民族、国内の地域、そしてジェンダーに関して新たに集計されたデータを使用しました。GRID には、280 もの世帯調査に基づく直接データと、大規模に編集された公的な集積データから算出された人間開発の結果に関する統計が含まれています。私たちは、GRID を用いて、「子ども開発指数(CDI)」を算出し、いかにして状況が時間とともに変化するのを含め、一連の新たな分析を実施しました。結果として、私たちがサンプルとして用いた国々の半数以上が、国内における民族グループ間および地域間において、生涯機会における格差が増大していることがわかりました。

残念ながら、排除されているグループ自体が統計上把握されていないことから、データ不足が課題の一つとして残されています。今回の分析では、**二次データ**を基にした予測値を使うことによって、補完する形をとっています。

この報告書ではまた、私たちが活動を行っている 28 か国において実施されたさらに詳細な分析結果も含まれています。最も排除されたグループとともに現場で活動するセーブ・ザ・チルドレンの専門家により、一連の「各国のスポットライト(Country Spotlights)」が提示されました。そこでは、国々による異なる文脈を理解する手助けとなる豊富な証拠や、子どもたちを取り巻く大きな不平等を生み出す要因が示されています。分析から得られた証拠は、セーブ・ザ・チルドレンの事業の裨益者である、子どもたちやその親たちに個別に行ったケーススタディーにより補足されています。

多くの国で状況は悪化しています

差別の課題は単なる「残された仕事」と見なされ、貧困が解消するのに伴って不公平も是正されるものと考えがちです。しかし、排除が生涯の機会にもたらす影響はますます重要になってきています¹⁷。

私たちの新しいデータ分析に基づく結果は、排除された少数民族とその他の人々の生涯機会における不平等は、データが取得可能な国の大多数で悪化しています。私たちの調査では、アパルトヘイト廃止から 20 年以上、米国の市民権運動から 60 年以上も経過したにもかかわらず、世界中で民族などの出自が一生涯における成果を決める重要な要因となることが明らかになりました。例えば、ペルーのケチュア族の子どもは、スペイン語を話す民族の子どもたちと比較して 5 歳未満で亡くなる確率が 1.6 倍、発育阻害となる確率が 2 倍です。ガーナでは、グルマ族の子どもはより優位な子どもたちと比べて発育阻害となる確率は 1998 年では 2 倍でしたが、2014 年にはこの差は約 3.5 倍となりました。大多数の国々において、不平等は悪化しており、排除された少数民族のグループは取り残されています。

私たちの分析はまた、一国内の地域間の生涯機会の差が、大多数のデータ取得可能なケースにおいて拡大していることを示しています。ある子どもが一国内のどこに住んでいるかは、その子どもがどの国で生まれたかと同じくらい重要と見られます。例えば、私たちが集約した「子ども開発指数 (Child Development Index, CDI)」によると、サヘル地域に住んでいるブルキナファソの子どもは、より貧しい国であるチャドの子どもよりも生涯機会が低い結果となっている一方で、ブルキナファソの首都ワガドゥグーの子どもは、インドネシアの子どもの平均と同じレベルとなっています。ほとんどの国において、これらの生涯機会における不平等は増加しています。例えば、ベナンは国全体としては重要な改善を遂げていますが、最も貧しいアリボリ地域の子どもは改善が進まず、さらに取り残されるという状況になっています。

同時に、難民の子どもの数は増え続けており、2014 年はここ 10 年以上で最も難民の子どもの数が大きくなりました。2011 年には世界の難民のうち子どもは 46% でしたが、2014 年には 51% に増えました¹⁸。2014 年は故郷を追われた人々が史上最大の 5,950 万人となり、2013 年と比べて 830 万人もの人々がさらに故郷を追われました。国内避難民の半数以上は子どもです¹⁹。

これは不適切な管理や、運の悪さのせいにはできません。こうした格差が続いている現状は、著しいネグレクト、さらに悪く言えば深刻な差別に根差していることを示しています。

私たちみんなの責任

排除をなくすための迅速な行動なくしては、貧困削減の成果も失速し、最終的には止まってしまおうでしょう。

2015 年に世界の首脳は新しい世界の目標である持続可能な開発目標 (SDGs) に合意し、世界は貧困の根絶を目指すための共通目標を得ました。目標の合意にあたり、各国は「誰一人取り残さない」ことを約束しました。私たちはこの野心を共有し、意欲的なコミットメントを推進した世界の首脳を称賛します。しかし、排除された人々への差別の撤廃なくして目標達成はできません。貧困に注力するのみでは足りないのです。

近年、世界は所得と富の不平等への取り組みを開始しました。しかし、今必要とされているのは、女の子と男の子の生涯機会における不平等や、異なる民族グループや地域間の不平等にどのように取り組んでいくかについての同じレベルの注力であり、アイデンティティに根差したあらゆる不平等に取り組むことです。子どもが誰であり、どこに住んでいるかを理由に排除するのは、選択された結果であり、あらゆるレベルのアクターの責任です。

- 子どもが学校に行くかどうかの判断が、家庭の所得、子どものジェンダー、または子どもの障害によって決まる時、排除は**家庭レベルで経験されます**。
- あるグループが不利な立場に置かれ、地域の学校や保健クリニックが包摂的なサービスを提供出来ていない時、排除は**地域レベルで強化されます**。
- 排除された子どもやその地域の声や経験が無視され、すべての子どもの生存と発達を確保するための資源が不足している時、排除は**国レベルで制度化されます**。
- さらに、国連が重要な規範や条約を制定し、ほとんどの国で合意されているにもかかわらず、途上国に相応のグローバルな税や援助を供与し、すべての排除された子どもの権利の実現に失敗したことにより、**国際レベルで不公平に対する取り組みが不足しています**。

表1:すべての子どもたちに保障されるべき3つの点

1. 公正な資金調達	2. 平等な扱い	3. 説明責任
公的歳入の増加、衡平な徴収と支出、国際的な支援	サービスに差別的な障壁となる法律や政策を取り除く	より詳細なデータの細分化
サービスの費用上の障壁を取り除く	社会規範や行動様式を変える一般向けキャンペーン	子どもを含むあらゆるレベルにおけるガバナンス
すべての子どもたちに対する最低限の財政上の保護	すべての子どもの出生登録	予算の透明性とモニタリング

すべての子どもへの公平な機会

排除された子どもが立ち向かう障壁は高いものの、避けられないものではありません。これら障壁は人間の選択によるもので、人間の選択によって取り壊せるものでもあります。包摂のための資金、差別、そしてアカウントビリティの障壁を克服するため、私たちは世界の首脳に**すべての子どものための3つの保障**を約束することを求めます：

1. 公正な資金調達—基礎社会サービスに対する持続可能な資金調達と無償のアクセス

質の高い、衡平な基礎社会サービスへの公共投資は、増額し改善されなければなりません。普遍的な基礎社会サービスは、すべての子どもを支援しますが、とりわけ排除された子どもを助けることとなります。

2. 平等な扱い—差別的な政策、規範、行動を終わらせる

差別的な規範は修正し、法的および政策的な障壁は取り除かれなければなりません(例えば、学校における暴力や児童婚を容認し、存続させるような障壁)。

3. 子ども、その家族および地域に対する政策決定者の説明責任

政策策定および予算配分における、子どもを含む排除されたグループの参加の拡大が確保されなければなりません。

これらの保障は、あらゆる地域のすべての子どもたちに向けて、すべての政策決定者に対して求めるものです。小さな前進では、排除を終わらせることはできません。これら保障は、最後の 1 人の子どもまで行き渡らなければなりません。

セーブ・ザ・チルドレンのグローバル・キャンペーン

子どもが単に女の子であるから、あるいは差別されている民族グループ出身だから、障害を持っているから、紛争により故郷を追われているから、あるいは「間違った」場所に住んでいるから、という理由で取り残されないために、私たちは何をすれば良いかが分かっています。この報告書は、排除を終わらせるためのセーブ・ザ・チルドレンの野心を示し、世界中の首脳に対し、最後の 1 人の子どもに手を差し伸べるために我々と一緒に行動して下さるよう呼びかけるものです。

今後 3 年間にわたり、セーブ・ザ・チルドレンは最後の 1 人の子どもが生存し発達できるよう、あらゆる努力を惜しみません。私たちは排除された子どもと直接活動し、革新的な解決策やプログラム・アプローチを提示します。私たちは貧困と差別の存続を許してきた法律、規範、政策を変えます。そして私たちは、世界の忘れられた子どもたちと共に、そして子どもたちのために、キャンペーンを行います。

これは緊急事態です。私たちが住んでいるこの狭い、排除を助長する世界は、私たちが子どもたちのために築くべき世界ではありません。みなさんのサポートにより、子どもが誰であり、どこに住んでいるかということで子どもの生涯の機会が決まることがないようにします。私たちは一緒に行動することで、排除を終わらせることができます。

私たちは、最後の 1 人の子どもにまで手を差し伸べるのが可能です。

数字で見る現状

世界各地で、排除されたグループの子どもたちが取り残されています。

- ✓ 私たちの推計によると、ある民族そして宗教のグループに属する **4 億人** の子どもたちが差別されています²⁰。
- ✓ 私たちのデータ上にあるすべての子どもたちの **4 分の一** にあたる、途上国の 12 億人の子どもたちは、各国内において取り残されてきた地域に暮らしています²¹。
- ✓ 2010 年には、世界人口から **1 億 1,700 万人** の女性が失われました。大半は出生前の性の選別によるものです²²。
- ✓ 18 歳未満の既婚人口は、男性 1 億 5,600 万人に対し、女性は **7 億 2,000 万人** にのぼります²³。
- ✓ 世界では中学校の年齢にあたる 4 人の子どものうち 3 人が就学していますが²⁴、難民の子どもたちは **4 人のうち 1 人** しか学校に行っていないと推計されます²⁵。
- ✓ 先住民グループが世界人口に占める割合は **5%** にすぎないにもかかわらず、世界の貧困人口の **15%** は先住民グループとなっています²⁶。
- ✓ 障害をもつ子どもたちが、そうではない子どもたちに比べて、身体的・性的暴行やネグレクトにあう確率は **3~4 倍** も高くなっています²⁷。

そして、状況はますます悪くなっています。

- ✓ 私たちの新しい調査によると、データが取得可能な国々の **半数以上** において 2000 年代以降、国内における民族グループ間、地域間の生涯における機会に関する格差が拡大しています²⁸。
- ✓ 良好な健康状態、栄養状態および教育を有しない貧困家庭の **3 分の 2** は、少数民族グループに属しています²⁹。
- ✓ 2014 年には、自分たちの家からの避難を余儀なくされた人々は 1 日当たり **42,500 人** でした。これは 2010 年の **4 倍** にあたります³⁰。
- ✓ **17 年**：難民の人々が、自分たちの家から逃れて戻れない年数の平均です³¹。

しかし、よい方向に変化をもたらすことは可能です。

- ✓ 現金給付 (cash transfer) を受けたペルーのアヤクーチョ地域では、予防接種を受けた子どもの数が **30%** 増加しました³²。
- ✓ ルワンダの人口の **90%** 以上が、国内健康保健システムの開始後 10 年で、同システムに加入しています³³。
- ✓ バングラデシュではここ 20 年間で、子どもの死亡率におけるジェンダーの不平等が **50%** 低減されました³⁴。
- ✓ 2013 年時点で、世界中の女兒の **91%** が初等教育を修了しました。これは、2000 年時点の 78% から増加し、男児の 93% とほぼ同じとなりました³⁵。

-
- ¹ UN Inter-Agency Group for Child Mortality Estimation (2015) Estimates for child mortality. <http://www.childmortality.org/>
- ² UNESCO (2014) *Around 250 million children of primary school-age are not reaching a minimum learning standard*. Technical note prepared for the Education for All Global Monitoring Report 2013/2014. <http://unesdoc.unesco.org/images/0022/002287/228723E.pdf>
- ³ UN Inter-Agency Group for Child Mortality Estimation (2015) *Estimates for child mortality*. <http://www.childmortality.org/>
- ⁴ UNESCO (2014) Global progress towards universal primary education has halted. <http://www.uis.unesco.org/FactSheets/Documents/fs-28-out-of-school-children-en.pdf>
- ⁵ Only between 1990 and 2010 the global figure reduced to a third, see: De Onis, M., Blossner, M. and Borghi, E. (2012) Prevalence and trends of stunting among pre-school children, 1990–2020. http://www.who.int/nutgrowthdb/publications/stunting1990_2020/en/
- ⁶ Own estimations based on the Minorities at Risk database (<http://www.cidcm.umd.edu/mar/about.asp>) and UN population statistics (see methodological Appendix 2 for further details)
- ⁷ UNICEF (2014) *More than 1 in 10 Children Living in Countries and Areas Affected by Armed Conflict*. <https://www.unicefusa.org/press/releases/unicef-more-1-10-children-living-countries-and-areas-affected-armed-conflict/21551>
- ⁸ UNICEF (2006). *The State of the World's Children*. http://www.unicef.org/sowc06/pdfs/sowc06_fullreport.pdf
- ⁹ Olinto, P., Beegle, K. Sobrado, C. & H. Uematsu (2013). *The State of the Poor: Where are the poor, where is extreme poverty harder to end, and what is the current profile of the world's poor?* <http://siteresources.worldbank.org/EXTPREMNET/Resources/EP125.pdf>
- ¹⁰ This is 1.12 billion out of 2.2 billion children living in developing countries based on population estimates from of 2014. Figures correspond to own analysis based on Save the Children Group Based Inequality Database.
- ¹¹ Sumner, A. (2012). *The New Face of Poverty: How has the Composition of Poverty in Low Income and Lower Middle Income Countries (excluding China) Changed since the 1990s?* IDS Working Paper No 408. <https://www.ids.ac.uk/files/dmfile/Wp408.pdf>
- ¹² IFAD (n.d.). *Rural Poverty Portal: Indigenous people and rural poverty*. http://www.ruralpovertyportal.org/topic/home/tags/indigenous_peoples
- ¹³ UNICEF (2014). *Ending Child Marriage: Progress and prospects*. UNICEF, New York. http://www.unicef.org/media/files/Child_Marriage_Report_7_17_LR..pdf
- ¹⁴ Own calculations. See endnote 5 in The Story in Numbers (p 73).
- ¹⁵ The World Bank Group (2016) Gross enrolment ratio, secondary, both sexes (%). <http://data.worldbank.org/indicator/SE.SEC.ENRR/countries?display=graph>
- ¹⁶ Jones, L., Bellis, M.A., Wood, S., Hughes, K., McCoy, E., Eckley, L., Bates, G., Mikton, C., Shakespeare, T., Officer, A. (2012) 'Prevalence and risk of violence against children with disabilities: a systematic review and meta-analysis of observational studies'. *The Lancet*, Vol. 380, No. 9845
- ¹⁷ Own calculation based on Save the Children Group Based Inequality Database (GRID) and analysis on the Child Development Index (CDI). For methodological details see Appendix 2 and 3).
- ¹⁸ UNHCR. (2014). UNHCR Global Trends, Forced Displacement in 2014, World at War. <http://unhcr.org/556725e69.html>
- ¹⁹ UN News Centre (2015). *2015 'year of fear' for children, UN education envoy says, urging school funding in crisis*. <http://www.un.org/apps/news/story.asp?NewsID=50929-.VrX9XS4nzct>
- ²⁰ Calculated using the Minorities at Risk database (<http://www.cidcm.umd.edu/mar/about.asp>) and UN population statistics.
- ²¹ This is 1.12 billion out of 2.2 billion children living in developing countries based on population estimates from 2014. Figures correspond to own analysis based on Save the Children Group Based Inequality Database.
- ²² UNFPA (2012). *Sex Imbalances at Birth: Current trends, consequences and policy implications*. <http://www.unfpa.org/sites/default/files/pub-pdf/Sex%20Imbalances%20at%20Birth.%20PDF%20UNFPA%20APRO%20publication%202012.pdf>
- ²³ UNICEF (2014). *Ending Child Marriage: Progress and prospects*. UNICEF, New York. http://www.unicef.org/media/files/Child_Marriage_Report_7_17_LR..pdf
- ²⁴ The World Bank Group (2016) Gross enrolment ratio, secondary, both sexes (%). <http://data.worldbank.org/indicator/SE.SEC.ENRR/countries?display=graph>
- ²⁵ UNHCR (2016). *Education*. <http://www.unhcr.org/pages/49c3646cda.html>
- ²⁶ IFAD (n.d.). *Rural Poverty Portal: Indigenous people and rural poverty*.

http://www.ruralpovertyportal.org/topic/home/tags/indigenous_peoples

- ²⁷ Jones, L., Bellis, M.A., Wood, S., Hughes, K., McCoy, E., Eckley, L., Bates, G., Mikton, C., Shakespeare, T., Officer, A. (2012) 'Prevalence and risk of violence against children with disabilities: a systematic review and meta-analysis of observational studies'. *The Lancet*, Vol. 380, No. 9845
- ²⁸ Own calculations based on Save the Children Group Based Inequality Database (GRID).
- ²⁹ Sumner, A. (2012). *The New Face of Poverty: How has the Composition of Poverty in Low Income and Lower Middle Income Countries (excluding China) Changed since the 1990s?* IDS Working Paper No 408. <https://www.ids.ac.uk/files/dmfile/Wp408.pdf>
- ³⁰ UNHCR. (2014). *UNHCR Global Trends, Forced Displacement in 2014, World at War*. <http://unhcr.org/556725e69.html>
- ³¹ Executive Committee of the High Commissioner's Programme (2004). *Protracted Refugee Situations*. Standing Committee 30th Meeting. <http://www.unhcr.org/40ed5b384.html>
- ³² Jones, N., with Vargas, R. and Villar, E. (2008) 'Cash transfers to tackle childhood poverty and vulnerability: an analysis of Peru's Juntos programme', *Environment and Urbanization*, 20(1), 2008, pp 255–273 p. 264.
- ³³ Makaka, A., Breen, S & A. Binagwaho (2012). 'Universal health coverage in Rwanda: a report on innovations to increase enrolment in community-based health insurance'. *The Lancet*. Vol 380, Special Issue, S7.
- ³⁴ Save the Children (2015). *The Lottery of birth: Giving all children an equal chance to survive*. <http://www.savethechildren.org.uk/resources/online-library/lottery-birth>
- ³⁵ The World Bank Group (2016). World Development. <http://data.worldbank.org/indicator/SE.PRM.CMPT.FE.ZS>